

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第8回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和6年1月30日(火) 午後4時00分 ~ 午後4時50分
開催方法	501会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	吉野部長 山本課長 石嶋主幹 北田副主幹
議 題	令和5年度外部評価報告書(案)について
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料】令和5年度外部評価報告書(案) 【巻末資料 資料1】答申書 【巻末資料 資料2】戸田市外部評価委員会委員名簿 【巻末資料 資料3】令和5年度戸田市外部評価委員会会議録

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>元日に能登半島地震、翌日には羽田空港での航空機事故があり、非常に悲痛的な思いで報道を見ていた。おそらく、戸田市からも北陸地方に派遣される職員がいるであろうと思うが、改めて、防災の重要性、意識を高めていく必要性があると感じた。</p> <p>第8回外部評価委員会は今年度の最終回であると同時に、任期の最終回でもある。今年度の外部評価の結果を踏まえて、今後の政策につなげていくという、言うなれば、報告書の1ページ目にあるPDCAサイクルで言えば、CAPの部分を踏まえた内容をまとめたものが、この報告書(案)である。</p> <p>本日も忌憚のない発言をいただきたい。</p>
事務局	<p>3 議 事</p> <p>○令和5年度外部評価報告書(案)について</p> <p>資料に基づき、事務局が説明を行った。</p>
委員	<p>各部局から答えを出してもらうのだから、事務局は大変であったものと考ええる。この結果を実際にどのように反映するか。行動計画表には、後期基本計画に反映させたいと具体的に記載している施策もあり、そのように進めていただければ、外部評価を実施した甲斐がある。</p> <p>評価について言えば、令和3年度から第5次総合振興計画が始まり、5年後に後期基本計画になるので、スパンや施策の進捗をもう少し明確に示した方が、より具体的な方向性がでてくるのではないかと。</p> <p>本来ならば、スパンや進捗に関することをロジック・モデルシートで分かるような仕組みにできれば、それを見るだけで全体的な位置づけ、他のセクションや施策との関連性、スパンなど、今後の方向性が分かるようになると良い。</p>
事務局	<p>外部評価委員会での意見等を反映するという点では、毎年PDCAを回し</p>

	<p>ながら反映していくことが大前提である。また、次期計画を作成していく際にも、もちろん活かしていく。</p> <p>ヒアリングの際にも令和4年度事業の実施に対する意見をいただいたので、各部局で随時、年度予算に向けた検討を進めていた。検討の中で、反映できるものは、令和6年度予算に反映していくというスタンスで取り組んでいる。</p> <p>その結果を文章として行動計画表に落とし込んだ形になるが、単年度で解決できない課題も多くある。来年度から後期基本計画の策定準備を開始するが、その際には、前期基本計画の振り返りとして、外部評価委員会からいただいた内容についても、しっかり落とし込み、後期基本計画に反映していきたい。</p> <p>2点目の時間軸やスパンについては、今、提示できる解決策を持ち合わせていないが、より分かりやすい形に改善したい。ひいては、市民にとって分かりやすく、かつ、行政内部でもセクショナリズムではなく、全体で取り組んでいくということが、より分かりやすい方法を検討してまいりたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員の話にあった見せ方の部分については、確かに報告書に行動計画表が文章で記載されているが、一般市民の多くの方が行間を読むことができるようなものか。文章だけでなく、図式など、こういったものがあるのかについては、検討を要するが、一目で見て分かるような見せ方があると外部評価やその前提になっている施策評価や事務事業評価といった行政内部の自己評価の関心が高まっていくのではないかと。私も考えてみたいが、このあたりに工夫する余地があるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>委員長の話に関連して、行動計画表などの記載については、定性的な表現になっている。何をしたいかという具体的な部分が分かりにくいので、できるだけ定量的な指標を入れて進捗状況を測っていくという点をガイドラインなどで各部局に示すなど、引き続き取り組んでいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>定量的な指標を入れることで、進捗状況を管理しやすくなるという点があるので、参考にさせていただきたい。</p>

<p>委員</p>	<p>この2年間で対象となった施策を担当する部局は、外部評価を経験されたわけである。全体をマネジメントする共創企画課と各部局とのやりとりについて、1点教えていただきたい。</p> <p>外部評価委員会は、多様な視点を持つ人たちが集うことで、これまでなかった新しいものを提供できればという趣旨が記載されている。新しさには、既存事業を遂行する上で培ってきた各部局の考えと異なる考えがぶつかるということも含まれている。その意味で言うと、外部評価において、やりとりをする中で、部局側が新しく発見することがある。評価側がどのように点検するかということについて、例えば、人員配置や予算配分がどのように変わったかという視点から見ていくこともあるだろうし、仕事の分担を変えたという視点から見ていく場合もある。一方で、組織配置は変わらないが、この点を気づかせたということもあるかと思う。</p> <p>そこで、質問であるが、各部局と評価結果について、やりとりをする中で、気づかされたという声などがあれば教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>外部評価については、外部からの視点で再評価するという仕組みになっているが、委員の話のとおりヒアリングでは、同じような視点で評価されることもあれば、新たな視点を事業に活かすこともあり、予算や配分にも、そのような意見を反映していくなど、気づかされる場面も多々あったと感じている。我々に足りない点が多々あるので、必ずしも内部評価と外部評価が一致するということはなく、毎度、気づかされるのが非常に多くあり、まさに外部評価の目的の一つである。そういった意味では、各部局において、気づきの部分は非常に多くある。</p> <p>外部評価ヒアリングを8月に実施することで、そういった気づきを来年度事業に反映していくことができていると感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局側で評価を受けた各部局の方とコミュニケーションを図った上で、この施策では、これが気づきになったというものがあるならば、この場で共有をお願いしたい。我々も実施した甲斐が醸成されるので、ありがたい。</p> <p>特に、こんな反応が目立ったという点があれば、教えていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回、評価をいただいた中で、施策9では、健康づくりにより健康寿命を</p>

延ばしていく施策だが、部局からスマートウエルネスシティの推進という話があった。いわゆる健康増進計画という保健部門で策定する計画だが、これを「スマートウエルネスシティを作る」という方向性に切り替えるというものである。

今年度末までに策定する計画だが、その中で、朝食の問題や喫煙、運動などについても触れている。担当部署には保健部門、特に保健師を使ってどう展開していくかという観点で担当部局に事業を練ってもらった。予算査定後、3月議会で議決を得なければ、始まらないものではあるが、例えば、朝食を推進する事業や健康寿命がどうして伸びないのかという点について、研究していくような事業などを予定している。

それから、施策26については、6施策の中で良い評価をいただいたと思っている。公園をリニューアルしていくという市長の考えもあり、公園リニューアル計画に基づいて、公園をもっと魅力的な場所にしていく事業である。いわゆるハード面が目立ってしまうが、公園のハード面をただ綺麗にしていだけでなく、市民がたくさん集って、いろいろなことができる場であってほしいという考えから、ソフト事業を展開している。いろいろな社会実験を繰り返し、これまでは規制が多く、できなかったことが公園でできるようになる。また、継続的に行われるような担い手を作っていく事業などを展開していく。このような点は皆様からいただいた意見を踏まえて、予算付けをしている部分である。

皆様の意見をいただいた上で、行動計画表の中だけでは、なかなか把握できないところもあるが、事業に繋げていくというところは、少しずつ出てきているのではないかと考えている。

委員

委員になった時、令和3年度から開始した第5次総合振興計画に則した新しい事業が出てこないのはなぜかと疑問に思っていた。

ヒアリングなどを行う中で、基本的に行政がやっていく住民サービスは変わらないので、総合振興計画が新しくなっても基本的な部分は変わらない。ただ、新しく計画を作るからには、どこかが変わっているはずである。従来の事務事業を引き継ぐ場合でも、変わった部分を明確にし、理解していないと新しい総合振興計画の趣旨などが分からないのではないかと。

さきほど、説明していただいたスマートウエルネスシティ計画は良いスタ

事務局	<p>ートが切れたのではないかと考えている。施策で、この事業がメインになるのであれば、施策の手段である事務事業の設定も変えた方がよいのではないかと。また、この施策には事務事業がたくさんあるので、施策のメインとなる事業があってもよいのではないかと。</p> <p>公園リニューアル計画については、初めにカルテを作ると書いてある。これが一番大事なことであり、それに掛かるところである。だから、そのあとの段階に非常に期待できるというのが、評価結果であったと思う。その一方で、進捗管理が非常に難しい。カルテを作ることの進捗であれば報告ができるはずであるが、明確な答えは聞けなかった。</p> <p>今までと同じであれば、第4次総合振興計画と第5次総合振興計画では何が違うのか。そういった点をより明確にして、それを市民にも分かるようにすることで、総合振興計画がより身近なものになるのではないかと。</p>
	<p>スマートウェルネスシティ計画については、食育や健康づくりなどあるが、健康寿命をどう延伸するかという話である。高齢者だけでなく、現役世代や子供のころから「健康は大事である」と伝えることは保健部門ができるので、いろいろな世代に同じように伝えられるようなことができるようになる計画になってほしいと考えている。</p> <p>公園については、伸びしろがどれだけあるかを見極めながら改修内容を決めていくもので、そのためにカルテを作っている。また、市内85カ所の公園に包括指定管理制度を導入するなど新しい取組も進めており、コストカットをしながら経営を維持していくという視点を取り入れた。その公園を使って健康づくりをするという2つの施策に関連する事業を行うことにより、相乗効果を生むということも考えていかなければいけない。各部局がバラバラに事業を展開していることが多かったため、それを変えていかなければいけない時代になっているので、後期基本計画を策定する際に考えていければと思っている。</p> <p>委員</p> <p>そのあたりを明確にするのが、ロジック・モデルシートであると思っている。使い方が上手くないと、部局に余計な手間と感じられては、どうにもならないので、そこをどのように進めていくかという問題もある。</p>

事務局	<p>ロジック・モデルシートについては、今年度の外部評価ヒアリングにおいて試行的に施策説明で使用した。部局が作成したロジック・モデルシートは、分かりやすさ、筋が通っているか、事務事業が網羅され連携事業が記載されているかなどについて、事務局がチェックをしているが、外部評価委員会でそれぞれの視点から評価いただくことの方が、気づきが多く良い事例であると思っている。事務局としてもロジック・モデルシートの作成する際に確認すべき観点などが蓄積できたので、他部局のロジック・モデルシートにも落とし込めるようにしたい。また、次年度の予算を踏まえたロジック・モデルシートは、今まさにメンテナンスをかけはじめている。ロジック・モデルシートが見直しの役割を果たせるように、ブラッシュアップしていく。</p>
委員	<p>一つ一つの意見が貴重なものばかりだと思うので、それを活かして、今後の戸田市の発展に努めていただきたい。</p>
委員	<p>評価対象の部局の方とは、ヒアリングの時に会いただけだが、行動計画表を作成いただいたことで、目に見えない会話をしているようであった。他市の外部評価報告書は、外部評価委員会が投げかけたところで終わっているものが多いが、戸田市の場合は、キャッチボールができてきているような形であり、分かりやすくて良いと感じた。</p>
委員	<p>一般的に外部評価は、既存事業をちゃんとチェックして、その上で新しいことをやっていければ良いと思っているが、戸田市のような形で実施している自治体はあまりないのではないかと感じる。それは素晴らしい点である。</p> <p>その中で、さらに改善していこうという意志が感じられるので、今後に期待したい。</p>
委員長	<p>外部評価ヒアリングで対象施策の部局職員と話をする中で、職員が驚きや気づいた点が全くなかったら、外部評価委員会の存在意義がなくなってしまう。学びや気づき、驚き、意外性など、市民から鋭い質問がでてきたり、建設的な提案がでてきたり、指標はもっとこうしたら良いなど、いろいろなキャリアの方からの質問や発言によって、なんらかの気づきがあると良いなと思い、委員の皆様はヒアリングに向け、膨大な資料を読み込んでいたのでは</p>

なかろうか。できれば、来年度から外部評価の対象施策の担当部局の方々に対して、ヒアリング直後でも良いし、あるいは行動計画を作る時に外部評価を振り返ることになるかと思うので、振り返ってみて、何らかの気づきや学びがあったか、あるいは意外だと思った点など、アンケートのような形になるのか分からないが、聞いていただき、残しておくというのも良いことである。これは、外部評価委員会側の力量にもよるので、的確な質問ができるかどうかにもよると思うが、そういったことも次年度以降できたらと思う。

なぜ、このようなことを言うかということ、評価には2つの側面があると考えている。1つ目は、対外的には、市民や納税者への説明責任であるから、膨大なコストと費用をかけて市民に公表することによって透明性や説明責任を図っていくことが必要であるということ。2つ目は、内部的には、学習や見直しのツールという側面がある。実際に内部評価で完結するのではなく、外部評価という対話の機会を通じた学びや気づきを次の計画につなげていくという側面の両方がある。

アカウントビリティを果たしていくということが間違った方向に行くと、見せるための評価や作業になってしまい、学びや気づきがなければ、たちまち形骸化してしまう。申し上げたように組織的な改善、学習という視点と一般市民に対してしっかり公表していくという両方の視点を併せ持った内部評価と外部評価を車の両輪として、機能させていくということを今後もしっかり考えていく必要がある。

戸田市の外部評価委員会は、平成20年から試行的に外部評価を実施しており、平成28年度には条例化するなど、アップデートしていて結構なレベルに到達している。他の自治体では、評価結果をフィードバックしている例は、あまりないのではないかと考えているので、これからも頑張りたい。事務局の方が仮に交代したとしてもクオリティを下げずに向上、ひいては今後の総合振興計画につなげていただければと思う。

委員

次期の外部評価委員会の話になるが、評価対象については32施策のうち評価未実施の施策が20施策ある。この残った施策を対象として評価していくという方針で良いか。

事務局

昨年度の振り返りの中でも、ヒアリングを実施した施策の2回目の評価の

	<p>時期や方法が気になるという話があった。外部評価制度のスキームでは、何年に1度という決まりはないので、外部評価委員会での議論となるが、そういうものがあったても良いのではないかと考えている。</p>
委員	<p>一度評価した施策のP D C Aは継続してもらおうとして、個人的に残った施策にも思い入れがあるので、対象施策にしてしっかり評価していただきたい。</p>
委員長	<p>意見や質問等はあるか。</p>
委員一同	<p>なし</p>
	<p>4 閉 会</p>